



市指定有形文化財 藩主の木像

近鉄久居駅西口を出て南へ500mほど進むと、右手の塀越しに木々が見えてきます。ここを通り過ぎたところを右に入ると、ほどなく久居藩の菩提所となる玉淀寺たまふしがあります。久居藩初代藩主藤堂高通とうどう かつとみから境内地が寄進され、延宝7(1679)年に創建されました。もとは「玉泉寺」と称していましたが、2代藩主高堅たかかたの時、藤堂高虎の官名となる「和泉守」と同じ文字を使用することになるため、泉の字を改め、玉淀寺となったといえます。

山門をくぐると正面に本堂が見えます。その堂内の左側に、内部に金箔が施された黒漆塗りの厨子ぐしが2基あり、それぞれに初代藩主高通と2代藩主高堅の木像が納められています。共に高さ約65cmほどで、彩色が施された衣冠束帯で座した姿です。高通は笏しやくを両手で体の中央で持ち、深く足を組み精悍な印象を持ちます。一方、高堅は右手に笏を持ち、足を重ねない座禅の形で、豊満でやや強大な感じを受けます。このようにその印象は異なりますが、共に気品ある藩主としての風格を感じるもので、久居藩主

の姿が分かる唯一の貴重な文化財です。

このほか、境内には2代藩主高堅と3代藩主高陳たかのぶの墓所もあり、どちらも高さ約2mで五輪塔形式の墓石です。

令和元年度から令和3年度にかけては、久居藩がつくられてから入府するまでの「久居誕生350年」という節目の3年間となり、久居地域の魅力向上を図るためのさまざまな事業が実施されます。そのような時期に、まず訪れたい場所の一つがここ玉淀寺です。静かな雰囲気の中で、久居藩との深いつながりを感じてみてはいかがでしょうか。



2代藩主高堅の木像



初代藩主高通の木像

